長野市誌　第二巻　歴史編　原始・古代・中世

目　次

口　絵
刊行のことば　長野市長　塚田　佐
緒　言
例　言

第一編　原始・古代……一

序　章　長野市の自然と遺跡……三

一　歴史の舞台としての長野市の自然……四
　長野市の位置と面積　周辺合併により拡大した長野市　長野市の気候
二　三地域に分かれる地形……六
　西部山地　東部山地　長野盆地　独自性を保つ盆地
三　長野市域の地形と遺跡立地……一〇
　高原と丘陵地形　河岸段丘　犀川扇状地　裾花川扇状地　浅川扇状地
　河東の扇状地　千曲川低地　自然堤防
四　長野盆地の遺跡……一八

長野盆地南部の遺跡　松代地域の遺跡　犀川水系の遺跡　若穂・須坂地域の遺跡
浅川扇状地と周辺の遺跡
五　遺跡にみる災害の歴史……二六
六　すすんだ開発と自然環境の変化……二九

第一章　長野盆地の黎明……三一

第一節　高原と山地の旧石器文化……三三
一　旧石器時代の長野盆地……三三
人類の歴史の始まり　長野盆地の旧石器時代遺跡　氷河時代の気候と動物相
二　飯綱高原の狩人……三七
上ヶ屋遺跡の調査　生活の道具　ムラの生活　旧石器人の地域交流
三　東アジアの細石器文化……四三
二万年前の世界　三つの細石器　北と南の文化
四　神子柴型石斧の登場……五三
磨製石斧の使用
五　有舌尖頭器を用いた人びと……五五

三つの有舌尖頭器

第二節　長野盆地の縄文文化……五七

一　土器と弓矢の出現……五七
列島化した自然　洞窟・岩陰遺跡　煮沸具としての土器

二　尖底土器を用いた人びと……六〇
押型文土器　狩猟採集の生活

三　低地に進出した人びと……六三
自然環境の変化　古環境の復元　集落の形成と展開　縄文的生活の定着

四　扇状地・段丘上のムラ……七四
生活の舞台　縄文土器の多様な器形の出現と展開　身体を飾った縄文人
生業形態の変化　ヒトとモノの交流

五　遺跡の立地類型と拠点的集落……九五
立地環境　遺跡の立地類型と特性

六　河川流域に定住した人びと……九九
縄文人の低湿地への進出　明らかにされた縄文人とその生活　千曲川のサケ・マス漁
縄文から弥生へ

第二章　科野国への動き……一〇九
第一節　農耕文化の歩み……一一〇
一　弥生文化の導入……一一〇
弥生文化の形成　長野の地への稲作導入　稲作関係石器の登場　根強い縄文伝統
篠ノ井・塩崎遺跡のムラと墓
二　農耕社会の確立……一二四
栗林式土器成立の経緯　本格的な水稲耕作　米以外の食糧　石の道具から鉄の道具へ
まつりの道具　松原集落の盛衰　集落どうしのつながり
三　赤い土器のクニ……一四四
箱清水式土器の発見　環濠集落と社会の緊張　銅鐸と武器形祭器　周溝墓と副葬品
母なる川に沿って広がるムラムラ　赤い土器の終焉と古墳時代への胎動
第二節　科野の国のなりたち……一六〇
一　古墳の出現……一六〇
古墳と古墳時代　土器の移動現象と地域再編　遠来の土器と長野盆地
前方後方墳の世界
二　川柳将軍塚古墳の時代……一七三

川柳将軍塚古墳の築造　地域王権の確立　地域王権の変容　祭祀域の形成
自然堤防上に展開するムラ
三　地域をかためた中小豪族と人びとの生活……一九二
中小豪族の台頭　塩崎・石川沖積地の古墳　川中島扇状地の古墳
裾花川・浅川扇状地の古墳　松代・若穂の沖積地の古墳　前方後円墳の終焉
人びとの生活　須恵器の使用と生産　生産地と農具　農耕祭祀と水神祭祀
四　積石塚古墳と合掌形石室……二二
名称と分布　大室古墳群の発掘調査　積石塚古墳と合掌形石室　積石塚の系統
大室における積石塚の推移
五　群集墳と古墳の終末……二三
群集する小規模古墳　横穴式石室のひろがり　群集墳に葬られた人びと
散在する小さなムラ　古墳が消えるとき
第三節　シナノのクニから科野国へ……二五一
一　ヤマト王権の東国進出とシナノのクニ……二五一
地域呼称「シナノ」の由来と用字　耶馬台国とその所在地
ヤマト王権の成立と「シナノのクニ」　記紀伝承に見えるヤマト王権の東方進出と「シナノ」
ヤマトタケル伝承と「古東山道」・「越への河の道」

二　科野国造と善光寺平の豪族・部民……二六四
ヤマト王権の地方支配の構造　科野国造氏と金刺舎人氏・他田舎人氏　善光寺平の部民
屋代遺跡群出土木簡と善光寺平の部民　善光寺平と屯倉の設置
武烈紀の「信濃国の男丁」　『伊呂波字類抄』の「善光寺」縁起と若麻績氏
三　律令国家の形成と科野国……二八八
ヤマト王権の動揺と東アジア情勢の変化　推古朝の政治と科野
朝鮮半島諸国の政治改革と「大化改新」　「大化改新の詔」と「東国国司」の派遣
孝徳朝の立評と科野国　阿倍比羅夫の蝦夷討征と科野
白村江敗戦後の政策と屋代遺跡群出土「乙丑年」木簡　壬申の乱と科野の兵
天武・持統朝と科野

第三章　律令制下の北信濃……三一一
第一節　新しい地方支配のしくみ……三一三
一　律令国家の行政・軍事制度のしくみと信濃国……三一三
中央行政のしくみ　地方行政のしくみ　信濃国内の行政組織とその変遷
公式令符式と国符・郡符　屋代木簡中の国符・郡符　地方行政と論語木簡・九九木簡
中央の軍制　地方の軍制　衛士と防人

二　律令国家の財政のしくみ・農民の負担と信濃国……三三三
財政基盤と農民の負担　戸籍・計帳と班田収授制　信濃国内におかれた封戸

第二節　地域としての北信濃……三五一

一　出土資料からみた北信濃……三五一
善光寺平の古代の歴史的環境　屋代木簡と古代の行政　古代信濃の行政地名
長野市域の出土文字資料

二　北信濃の牧……三六八
科野の牧の始まり　律令制成立期の牧の経営　中央・地方の牧官司と馬の用途
長屋王家木簡にみえる信濃の牧史料　内厩寮・御牧の出現と信濃国牧主当
牧の官司と地方牧の変遷　御牧の経営と課欠の発生　課欠駒対策と信濃の牧
信濃の御牧と北信濃の牧

三　北信濃の交通……三八一
東山道と古代の交通路　信濃の東山道　善光寺平の駅路と伝路　道と条里遺構

第三節　古代の神と仏……三九一

一　東アジアにおける信濃の仏教文化……三九一
仏教伝来　小金銅仏の分布　白鳳時代の寺院

二　国分寺の造営……四〇一

信濃国分寺の造営　千曲川流域の古代寺院　郡家と廃寺
三　平安時代初期の神と仏……四〇九
国分寺と信濃の定額寺　信濃の神　神階叙位と神仏の習合　集落における仏教信仰
四　観音信仰と埋納経思想……四一八
北信濃の観音像　古代における観音信仰　観音霊場と経塚
第四節　古代から中世へ……四三七
一　考古学からみた古代のムラ……四三七
古代のムラの移りかわり　掘りだされた古代のムラ　特殊な出土遺物
ムラ人の生活様式の変化　手工業生産の展開　ムラの近くにつくられた墓
二　善光寺平の条里……四四四
条里とは　条里的遺構と水田遺跡　旧長野市街地の条里的遺構
条里的遺構のプランとその起源　条里的開発と地域の再編成
三　古代から中世への社会変動……四六一
東国の変動と北信濃　再開発の進展と新興有力者の台頭　信濃の初期荘園
王朝国家の成立　院政と荘園公領制

第二編　中　世……四七五
第一章　北信濃の鎌倉時代……四七七
第一節　源平争乱と北信濃……四七八
一　北信濃における源氏と平氏……四七八
流人から在地領主へ　井上郷、若槻荘などと源氏　笠原牧、東条荘などと平氏
平維綱と平正弘　保元・平治の乱
二　木曾義仲の旗揚げと北信濃の武士……四九五
挙兵から横田河原合戦まで　横田河原合戦の虚実　京への進撃と没落
三　善光寺と戸隠の動向……五〇五
古代末期の善光寺　善光寺信仰の発展　北信濃の山岳霊場
宗教領主としての戸隠
第二節　善光寺信仰の発展と諸宗派……五一八
一　鎌倉幕府と善光寺……五一八
頼朝による善光寺再建　北条氏と善光寺信仰　地頭・御家人と善光寺信仰
善光寺の寺内組織
二　善光寺信仰の展開……五二八

「善光寺縁起」と女人救済　新善光寺の成立とその性格
残存する善光寺仏とその問題点　「善光寺聖」の多彩な活動
主な参詣者とそのルート
三　新しい仏教の進出……五四五
遊行上人と信濃　無関普門と規菴祖円　律宗の拠点としての太田荘
旧仏教系寺院の動向
四　山岳信仰と神社……五六一
戸隠顕光寺の組織と諸活動　古代官社の変質
第三節　北信濃の社会と生活……五六八
一　北信濃の荘園と御厨……五六八
山間地における荘園の発達　千曲川流域の御厨と荘園　富部・布施御厨の痕跡
高田・市村郷から市村高田荘へ　四宮荘の実像
二　北信濃の公領と地頭……五九二
善光寺平の公領　善光寺平の地頭御家人
三　門前や宿の繁栄と職人……六〇一
鎌倉街道と善光寺　宿と渡しの発達　善光寺の門前　鎌倉時代の善光寺仏師

第二章　北信濃の南北朝内乱……六一七
第一節　得宗の進出と幕府の滅亡……六一八
一　北条氏の北信濃進出と御家人の衰退……六一八
四人の善光寺奉行人　善光寺奉行人の停止　北条氏の善光寺平への進出
得宗被官の進出
二　転換期を迎えた武家社会……六三五
御家人の困窮・疲弊　親族結合の変化　若槻氏の変化と所領
鎌倉攻めをめぐる庶子と惣領家
第二節　建武の新政と南北朝の内乱……六四八
一　建武新政下の北信濃……六四八
新政府の成立と混乱　「中先代の乱」と北信濃　尊氏の離叛と新政府の瓦解
二　南北朝内乱期の北信濃……六六三
室町幕府の創設　島津氏にみる領主制支配　「観応の擾乱」と北信濃の情勢
宗良親王の信濃入国　親王の挙兵と守護小笠原長基
第三章　北信濃をめぐる守護と国人領主……六八五

第一節　守護支配の展開と大塔合戦……六八六
一　鎌倉府管轄下の北信濃……六八六
守護上杉朝房と南朝勢力との角逐　守護斯波氏の入部と北信濃　守護所の移動と善光寺
二　大塔合戦と北信濃……七〇一
守護小笠原長秀の入部　合戦の発端　合戦の経緯　市域武士の動静
第二節　関東の争乱と北信濃……七一九
一　守護支配の進展と北信濃……七一九
幕府料国下の北信濃　小笠原政康の復権　守護小笠原政康の信濃支配
鎌倉府の紛擾と市域の武士
二　守護支配の衰退と北信濃……七三四
守護家小笠原氏の内紛　後退する守護支配と北信濃　北信濃の国人領主支配
第三節　室町時代の郷村と国人……七四八
一　北信濃の国人層と京都・北陸……七四八
太田荘領家年貢をめぐる紛争　国人島津氏の反抗と嘉慶の乱
応永の平和と市村高田荘の年貢納入
二　北信濃の郷村と国人・侍衆……七五七

守護被官となる侍衆と新しい郷村　守護領の変質と新興国人　高梨氏と六ヶ郷用水
三　国人領の村々……七七一
信濃文正の変と香坂・小田切氏の高梨領進出　善光寺平での応仁・文明の乱
消滅した中世の郷や村
四　室町文化の行きかう村と町……七八二
連歌師宗祇・宗長と善光寺平　僧堯恵の善光寺参詣　善光寺の朝鮮貿易
下総・長沼・京都を結ぶ真宗寺院　伊勢御師が訪ねる村・町
第四節　中世後期における仏教の展開……八〇〇
一　善光寺と善光寺信仰……八〇〇
門前町の形成と朝鮮遣使　たび重なる火災と再建　三井寺支配の終焉と本願尼の登場
新たな縁起の編さん　戦国武将と善光寺如来
二　禅宗の浸透と浄土系諸宗の発展……八二〇
此山妙在と性海霊見　大安寺と曹洞宗の進出　善光寺妻戸衆と時宗寺院
浄土宗の動向　真宗と「本尊裏書」
三　回国聖と地域霊場……八四三
六部と頼朝回国伝承　さまざまな山岳信仰　皆神山と在地修験

第四章　北信濃の戦国時代……八五三
第一節　川中島の合戦……八五四
一　武田軍の北上と北信の諸将……八五四
高梨氏の勢力拡大　武田の侵攻と村上義清　葛尾城自落　最初の川中島の合戦
二　八幡原の激突……八六五
二百日間の長陣　葛山城の落城　信越国境の戦い　永禄四年八幡原の激突
『甲陽軍鑑』が記す川中島の合戦
三　武田・上杉の同盟と平和の到来……八八四
飯山口の攻防戦　永禄七年の川中島出兵　御館の乱と越甲同盟　真田氏の台頭
第二節　武田領国下の北信濃……八九七
一　武田家臣と軍役……八九七
武田か上杉か　恩賞要求と宛行　歩兵中心の軍役　装備の統一・人数の加増
軍役の強化
二　海津城と北信支配……九一三
海津城主春日虎綱　郡司としての海津城主　牧野島城と在城衆　長沼城と郡司
武田氏の直轄領

第三節　上杉氏の川中島四郡支配……九三五
一　一揆蜂起す……九三五
武田氏滅亡　森長可の入部　一揆蜂起す　長可逃げる
二　上杉氏の侵入……九三六
諸将の服属　四つの城と城主・郡司　須田満親の海津入城
三　豊臣政権下の北信……九四五
上杉・真田同盟　上洛と朝鮮出兵　定納員数目録のなかの信州衆
文禄四年の太閤検地　国替えと領地の引き渡し
第四節　戦乱のなかの村……九六六
一　幕張りの杉……九六六
荒廃する村　造宮銭の強制と抵抗　欠落と人返し　幕張りの杉の伝承
二　村の貫高と石高……九七八
郷と上司貫高　上司貫高から定納高へ　太閤検地帳の石高
検地帳からみた下・中氷鉋村　郷村の代官
三　戦国時代の終焉……九九七

第五章　古代・中世の文化財……一〇〇三
第一節　建築……一〇〇四
一　中世の建築……一〇〇四
県下と市域の中世建築物　中世の社寺建築　信州の中世の建築の実例
中世の建築の特徴　仏寺建築の変化　神社建築　長野市の室町時代の神社
中世の信州神社建築の特徴
二　長野市の室町時代の建築物……一〇三三
葛山落合神社本殿　葛山落合神社境内社の諏訪社社殿　浅川西条の諏訪神社本殿
正覚院境内社の諏訪社
三　善光寺造営図……一〇三二
善光寺境内の建築設計図
四　中世の善光寺の建築……一〇四四
諸『絵図』から見た善光寺　中世伽藍と建物
第二節　美術工芸……一〇六〇
一　絵画……一〇六〇
二　彫刻……一〇六六

三　金工……一〇八五
四　漆工……一〇八八
五　陶磁……一〇八九
六　刀剣……一〇九〇
七　書跡・典籍……一〇九二
八　その他……一〇九五
第三節　石造文化財……一〇九八
一　長野市の中世石造物……一〇九八
信仰対象としての中世石造物　無数の造塔―五輪塔・宝篋印塔―
板碑―武蔵型板碑―　安山岩製板碑―善光寺平型の登場―
その他の石造物―多層塔・石幢・石仏―
二　石塔の立つ風景―中世善光寺の景観……一一〇七
花岡平石塔群の調査　善光寺周辺の石塔群　石塔の立つ風景
第四節　中世の城館跡……一一一四
一　軍事（防御）施設としての城……一一一四
城とその時代　城への関心・地域の文化財　城の見方　長野市域の山城

二　考古資料からみた長野市の城郭……二二三
　発掘された山城　山城の発掘で明らかになったこと
三　考古資料からみた長野市の居館跡……二二八
　市域の館分布　変化する館　発掘された居館
付録(1)　中世史料に見られる新善光寺一覧……二三五
付録(2)　中世の紀年銘を有する善光寺式如来像一覧……二四二
あとがき
原始・古代・中世史専門部会部員・調査執筆員
執筆分担
監修者
刊行委員
編さん準備委員
編さん委員
調査協力員
事務局・編さん室職員